

時の風

静岡県三島市にある国立遺伝学研究所で研究を続けているあいだにも、福井市内の自宅に住んでいた両親は老いていった。母は60代でパーキンソン病になり、父も70代で同じ病気を発病した。夏休みと正月休みには家族で福井に短期間帰っていたし、出張のついでに私だけ福井に帰省することもこのころがけに毎日来てくれていた。

足羽三山文化協議会

福井市内の特別養護老人ホームに入居した。

こうなると、父原子光生が行ってきた陶芸時雨窯の活動がほとんどなくなってしまうと考え、父に相談して、この連載第1回でも紹介した「足羽三山文化協議会」なるものを結成した。名称の由来は、福井の家が八幡山のふもとにあり、会主催の講演会は夷越山のふもとにあるおさこえ民家園で開催することにしたらからだ。地域に根ざしながら、福井の文化振興に貢献したいと考えた次第である。

第1回の講演会は2008年10月に、高校時代からの友人で妹と結婚した仏教学者佐々木閑氏に話してもらった。父を含めて30人ほどの参加があり、講演のあとは協議会メンバーの尾野和之氏設計による福井の家の書庫「懐無堂」で懇親会を開催した。このスタイルがその後定着した。

なお佐々木氏とは09年にウェッジから『生物学者と仏教学者

福井の振興願い講演企画

七つの対論』を刊行した。表紙は長女のはらの作品「色即」を使ってもらった。



翌年には協議会主催の講演会を2回開催した。春には故白崎昭一郎先生が福井に種痘をひろめた笠原白翁について紹介し、秋には私の妻斎藤文子が「コロンブスと新世界」というタイトルで話した。父は翌年1月に死去したので、妻の講演を聴いてもらってよかった。

父の死去後も講演会は継続させた。第4回は福井大学で長く教鞭をとった建築家福井宇洋氏、第5回は福井出身の画家で京都精華大学教授の佐川晃司氏が講演された。

11年の春には城郭建築史の吉田純一氏が、秋には小学校の教員をしながら絵画作成をしていた故谷口等氏が「生誕100年

国立遺伝学研究所特任教授 斎藤 成也

さいとう・なるや 1957年鯖江市生まれ。東京大理学部生物学科卒、米国テキサス大大学院修了。国立遺伝学研究所特任教授。文部科学省の新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」領域代表。専門はゲノム進化学。著書に「日本列島人の歴史」「核DNA解析でたどる日本人の源流」「人類はできそこないである」など。

を迎える瑛九の活動と福井」というタイトルで講演された。

12年の第8回は私と高校の同級生で当時金沢医科大学教授だった秋田利明氏が心臓病に関する専門的な話を、第9回は尾野和之氏が「手作りエコライフ」という題で話した。13年はいよいよ第10回となるので特別回として、第1回でも講演した佐々木閑氏とインダス文明の遺跡を調べていた言語学者長田俊樹氏のおふたりに講演していただいた。また非公開となってしまうが、豊小学校時代の担任だった故滝口亨先生にも福井藩について話していただいた。

和之、岩堀善廣、中川伸二、佐々木日嘉里といった方々が講演された。

私自身も17年の秋に「日本列島の起源と成立」という題で、100人を超える聴衆を前に講演した。19年には下の娘斎藤せつなが、大学院時代の恩師らと出版した書籍の内容をもとにした「小さい交通が都市を変える」という講演をした。

この7月30日には、福井市在住で公立小松大学国際文化交流学部の朝倉由希准教授に「芸術文化は社会になぜ必要か」というタイトルで、おさこえ民家園にて午後3時から講演していただく予定である。

この協議会主催の講演会は、今後福井に関係のある方々からさまざまな話題を提供していただきたいと考えている。